

【口頭発表】

今日の社会福祉士養成における倫理教育の特徴

－専門職養成テキストの倫理問題をめぐる記述から－

城西国際大学 林和歌子 (05062)

〔キーワード〕 社会福祉士養成 倫理教育 養成テキスト

1. 研究目的

我が国の社会福祉臨床分野では、医療技術の進歩や発展、少子高齢化社会の到来などによるニーズの複雑・高度化や、生活上の価値の多様化などから、1990年代後半から倫理問題を含む「ソーシャルワークの価値」の教育の重要性が強調されるようになった。さらに、国際社会における民族紛争、格差問題や環境問題など、一国の問題に止まらない課題への対応するために、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASW）による「ソーシャルワークの定義」の改定、及び「ソーシャルワークの倫理：原理についての表明」「ソーシャルワークの教育・養成に関する世界基準」の制定を行ってきた。こうした状況下において、2008年に社会福祉士、介護福祉士及び精神保健福祉士養成課程の教育内容等の見直しが行われ、社会福祉専門職の「価値」、「倫理」について、その概念やジレンマなど教育内容が取り入れられた。

しかし、厚生労働省の「社会福祉士養成課程における教育課程等の見直しについて」によると、「教育内容（シラバス）については、国家試験によって社会福祉士として必要な知識及び技能が評価されることを踏まえ、詳細な内容までは示さないこととし、それらについては、出題基準の中で網羅的に反映させる。」と記されている。（傍点は、原著では赤字）つまり、社会福祉専門職の行動の基盤ともいえる専門職の倫理教育の内容ではあるが、国家試験で一定の教育成果を測ることができるとし、「詳細な内容」は教える教員に委ねられている。

倫理はひとの生き方、社会のあり方を取り扱うものであり、社会や歴史によって既定される。価値観が多様化するなかで、この先、社会福祉士が取り扱う社会状況についてはより問題が複雑化することが予想され、その実践における矛盾構造に対して立ち向かう強い姿勢が求められている。国家試験で測定することが難しいこの態度の教育に対し、養成に関わる者に課せられている責任は大きい。そこで社会福祉士養成における倫理教育の在りかたを検討するに当たり、まず今日どのように倫理問題が取り扱われているのか、その実態を明らかにすることを本研究目的とする。

2. 研究の視点及び方法

本研究では、社会福祉士の養成テキストに登場する専門職の倫理教育に関する記述を対象として形態素分析を行い、度数の集計を行った。厚生労働省「社会福祉士養成課程における教育課程等の見直しについて」によると、「シラバスの内容」で倫理について触れられ

ているのは、「現代社会と福祉」と「相談援助の基盤と専門職」の2科目である。そのうち、社会福祉専門職の倫理について具体的に触れられているのは、「相談援助の基盤と専門職」の「⑦ 専門職倫理と倫理的ジレンマ」である。その「想定される教育の内容」を「専門職倫理の概念」「倫理綱領」「倫理的ジレンマ」の3項目としている。そこで、この3項目について、入手できる6出版社（中央法規、学文社、弘文堂、久美出版、ミネルヴァ書房、全国社会福祉協議会）の「相談援助の基盤と専門職」のテキストを使用し、検討を行った。

3. 倫理的配慮

本研究は、「日本社会福祉学会 研究倫理指針 第2 指針内容 A 引用」に基づき、先行業績の検討の際は、原著者名・文献・出版社・出版年・引用箇所を明示し、自説と他説とを峻別を行った。

4. 研究結果

そこでまず、各社会福祉士の養成テキストの該当ページを、タイトル及びその内容で精査した。各テキストが共通して掲載する社会福祉士等、各専門職の倫理綱領の紹介箇所は省いた。すると、そこで述べられていることは、以下の7カテゴリーに整理された。

- ①専門職と倫理、専門職倫理の概念、専門職倫理とは
- ②専門職倫理の必要性、なぜ専門職倫理が必要なのか
- ③ソーシャルワークと価値、ソーシャルワークの価値の意義
- ④ソーシャルワークの価値、ソーシャルワークの価値の内容
- ⑤倫理綱領の意味
- ⑥倫理的ジレンマとは、なぜジレンマが起こるのか、倫理的ジレンマの構造
- ⑦倫理的ジレンマの対処方法、倫理的判断過程、解決方法

上記の内容ごとに形態素分析を行い、度数分析を行った結果、①については、分ち書きの後抽出された構成要素から、句読点、助詞、特殊記号を除いた後の要素は711、さら同一語の置換を行った構成素数は336であった。出現度数4以上が25であった。最も出現度数が高かったものは「倫理」16、次いで「専門職」14、「価値」13、「ソーシャルワーカー」10、そして「ソーシャルワーク」「人間」が9、「行動」8、「考える」と「示す」、「人」が7と続く。

5. 考察

限られた出版物の分析という狭い範囲を対象としたものではあったが、各項目について今日の社会福祉士養成テキストにみる倫理教育の特徴が明らかになった。今後の課題は国際比較等を行いながら、福祉実践の実態に即した社会福祉専門職における倫理教育の在り方を検討していきたい。詳細は当日発表する。